

適期防除と残草処理で収量・品質を確保

マメシクイガ・紫斑病の適期防除と早めの残草処理で収量・品質を確保しましょう。
また、管内の大豆圃場で飛来性害虫であるハスモンヨトウによる食害が確認されています。圃場をよく観察し、被害葉が目立つ圃場では早めに薬剤防除しましょう。

【マメシクイガ】

防除適期 1回目：8月25日頃 2回目：9月10日頃(1回目の10日後)

- ◆ 日長に反応して成虫の発生時期が決まり、8月下旬～9月上旬に産卵盛期となる。ふ化幼虫の侵入を防ぐために暦日で2回防除が基本。
- ◆ 連作圃場や、昨年度被害の見られた圃場では被害拡大の懸念があるため、必ず適期に防除。



マメシクイガによる食害粒

【紫斑病】

防除適期 開花期25日後～35日後

- ◆ 開花期から40日程度が感染時期で、気温が25℃以上・多湿条件で感染しやすい。
- ◆ マメシクイガと同時防除の場合は、マメシクイガの1回目防除の時期に合わせる。
- ◆ マメシクイガ、紫斑病の薬剤は莢まで付着するよう丁寧に散布する。



紫斑病被害粒



ハスモンヨトウによる葉の食害

【ハスモンヨトウ】

- ◆ 台風や低気圧の通過に伴い多数飛来することがあり、多くの作物を加害する。葉の食害が減収に繋がる。
- ◆ 幼虫は、齢期が進むほど薬剤防除の効果が劣るため、早期発見につとめ、若齢幼虫時に防除する。
- ◆ 合成ピレスロイド剤は抵抗性害虫出現防止のため、総使用回数を2回以内にする。

【残草処理】

残草は、子実肥大の阻害、汚損粒の発生に繋がります。雑草が種子を付ける前に圃場から刈出すことで、次年度に向けて圃場内の雑草の種子密度を抑えることが重要。

※農薬使用の際は、ラベルをよく確認し、適切に使用しましょう。

【告知】 「大豆の栽培技術現地検討会」

に参加しませんか？

- ◆ **日時**：令和4年8月30日(火) 13:30～15:00
 - ◆ **場所**：三川町、鶴岡市の現地圃場
 - ◆ **内容**：大雨・干ばつ等の気象に対応した大豆の安定栽培技術等について
 - ◆ **対象**：鶴岡・田川地域の生産者等
- 詳しくは当課 (TEL:0235-64-2103) までお問い合わせください。

**熱中症を
予防しましょう!**

暑い日はこまめに
休憩・水分補給!

